

# 宮城

活動(グローバル)へのきっかけ作り

「グローバルに考えローカルに」



宮城県仙台市

## 一般社団法人 日本キリバス協会

### 気候変動やSDGsを 「知っているけど遠いところの問題」から、 「自分事」への橋渡し

中央太平洋にある『キリバス共和国』は、最貧国であるだけではなく、気候変動により「水没する国」とも紹介される『2050年危機』が示唆されています。ここ近年日本でも気候変動により甚大な災害などが頻発していますが、未だに「遠いところの問題」と捉えられがちです。このキリバスをテーマに、環境教育や、キリバスの青少年はじめ幅広い分野の人材交流、人材育成などを通して、気候変動とSDGsを「知っているけど遠いところの問題」から「自分事」への橋渡しをし、『グローカル』へのきっかけ作りのお手伝いをしています。

#### ■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について  
上: 日本側の発表  
下左: キリバス側の発表 下中: ドキドキの対面!  
下右: キリバス側の発表を日本側から

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目1-17  
やまふくビル4階-2  
電話 022-397-9914  
E-mail kentaro.ono686@gmail.com  
URL <https://www.facebook.com/tekeraoikiribat>



#### 活動紹介

### 秋田県大仙市立 大曲南中学校・ キリバス共和国 セントルイス中学校 オンライン交流



2022年度の交流がキリバスの新聞で取り上げられました



2023年度の交流もキリバスの新聞に掲載されました

#### プロジェクト概要

地域ESD活動推進拠点である「(一社)あきた地球環境会議」との連携で、秋田県大仙市立大曲南中学校とキリバス共和国南タラワ市のセントルイス中学校とのオンライン交流を2022年度と23年度に実施しました。2022年度はオンライン交流を前に、当協会代表理事によるガイダンス講話を全校生徒向けに行い、キリバスとその人々の生活、伝統文化及び同国における気候変動の実情の紹介、そして交流の重要性を伝えました。また、まだSDGsの周知度がキリバスでは低いため、キリバス側の学生はSDGsの事前学習を行い、実際の交流では、自己紹介、クイズを通じた双方の地域と文化紹介、そして気候変動に関する実情の紹介や、SDGsと『私たちが望む未来』をテーマにそれぞれが取り組めることに関する意見交換を行いました。

#### ESD実践のポイント

「水没する国」という、冷酷なまでに無味無臭で乾ききった冷たい一文で紹介されるキリバスに住む12万人の人々には、日本の皆さんと同じように当たり前の毎日があり、未来も希望もある。そして馴染みはあるものの、キリバスから遠く離れた日本という超大国には同年代の若者がいる。こんな当たり前の事実を実感してもらうため、参加者の顔写真と氏名、自己紹介を事前共有し、まずは同年代として親近感を持ってもらうことを意識しました。また、忌憚なく発表や意見交換ができるよう、自己紹介以外は双方の母国語(当協会による通訳と補足説明を介して日本語とキリバス語)を用いることを大原則としました。このことで、双方とも気候変動で実感していることやSDGsへの取り組み等を、臆せず母国語で発表と聞くことができ、双方の距離を縮め、『グローカル』の重要性を再認識してもらうことができました。

#### 担当者からのメッセージ

遠くに住む、見たことも会ったことも無い人に想いを馳せることは難しいことです。でも、たった一度でも、そしてたとえ画面越しでも顔を合わせた人には、どんなに遠くとも想いを寄せることは難しくはないはずです。このオンライン交流は気候変動やSDGsの『自分事化』だけではなく、両国の若者の絆づくりに大きく寄与していると自負しています。



代表理事 ケンタロ・オノさん